

新山協ニュース

▲ 発行者 鈴木敏雄

▲ 発行所 新潟県山岳協会

〒940 長岡市学校町1-12-23 室賀輝男 TEL 0258-32-0428

韓日交流登山

出逢いの旅

婦人部副部長 山田智子

昭和58年6月10日

新潟ソウルへ

山の道具を詰込んだザックを背負い、日本人形のお土産を持って、私達は晴天の金浦空港に旅の一步を印した。

通関手続きを済ませて空港ロビーに通じるドアを押すと、「歓迎 新潟県山岳協会員来韓」の横断幕が眼前にあり、私達はワットと感声をあげた。

更に外へ出ると、大勢の人間が出迎えており感激も一瞬に消え、こんなに歓迎してもらえないなんてと、ことの大きさに緊張してしまった。覚えの「안녕하세요」(こんにちは)の一言も、思いがけないことにベースが狂って声にならない。挨拶もそこそこ空港前の広場で記念撮影を行うと、マイクロボスと数台の乗用車に50名ほどが分乗して、近代的な五階建の文化

会館へ。その一室で韓国産のオレンジジュースを飲みながら、金炳勳氏の司会と了容騎氏の通訳で、全員の紹介と日程の打合せが緊張したムードの中で進行された。

雪岳山へはマイクロボスと乗用車2台、8名が同行するというので、私達と合わせると18名になった。盛大な見送りを受けて、一路雪岳山の麓の町へと出発する。ソウルの街は四日の4時前というのに人があふれ、驚異的な車のラッシュ、立並ぶ高層ビル、建造中のビル、いたる所に道路工事の標識など、発展の途上にあるというガイドブックの説明どおり、エネルギー的な印象を受ける。

流暢な日本語でガイドをしてくれる通訳役の丁氏や、晶元山岳会の現会長、金九鉉氏と歓談しながら、車の速度と同様に急速に意志の疎通をは

かる。

ソウルの繁華街を抜けて、裕信高速道路に入ると、車窓の景色は一変して岩山と畑、点在するカラフルな屋根の農家、川辺に遊ぶ牛、巾広い道路、束草(そくちょう)への山越えの道は、田園風景の中を突走って行く。

高速道路5時間の長旅は、途中で日が暮れはじめた。しかし8時はまだ明るくて峠の小休止も楽しく、日本語、英語、韓国語が入り混つての会話に、笑い声が響きわたる。やっぱり山仲間なのだ。数時間前の初対面など嘘のように旧知の友の如く話が弾む。胸の名札も役に立っている。車の中で、昔日本に住んだことがあるという通訳の丁氏は、数曲のナツメロを懐しそうに唄っていた。高峰三枝子の「湖畔の宿」は、唄ってからの人は今時の人ですよと説明する。

日没後にガスがかかり初め、一瞬の内に一寸先も見えないほどになった。わずかの区間であるが良くあるということ、所々の箱型の小屋の中で

は、見張りの人がお地蔵様のように座っていた。スピードを落したり止ったりするので、大巾にタイムロスが出る。ノロノロ走っている内に下りなさしかかり、高度が下ると同時にガスも上って行く。高速を下り、ソウル江陵束草へとドライブも終着に近づくと、徐々に家並みも増え商店街の薄暗い灯りの中で、人や車の激しい往来が揺れ動き、働き者の国を想像させる。日が長い分遅く迄働いているのだろう。

束草から雪岳山の麓までは車で30分位の距離で、日本の郊外という感じである。11時過ぎようやく雪岳洞に到着。人も多いがホテル、韓式旅館、土産店がびっしりと立並び、いかにも行楽地らしい。あとで聞いたところによれば、高速が通って、中々来れなかった景勝地が、近年は修学旅行やハネムーンの対象になるほど人気を得ているという。日本語を話す奥さんから「遠い所をよくいらいっしやいました」と出迎えを受けて、韓式旅館に到着。夜も11時を過ぎ皆ん

なハングリー。部屋に荷物を運んで小休止のあと、地下の食堂へ18名が集合して遅い夕食のテーブルを囲んだ。

13種類もの御馳走にびっく

りする。なかでも有名なキムチの臭いが鼻をつく。サラダ、焼魚、ノリの空揚げが辛くない料理で、あとは唐辛しの強力な辛味がきき、ニンニク、ニラなどの臭いの激しい材料が使われている。御飯は私達のために麦の割合を少くして炊いてもらったのだという。

韓国に着いてから、晶元山岳会の山男達は全てのことゆきとどいた配慮を示してくれ、恐縮すると共に準備段階の苦労を思いやることができた。

食事が済むと小雨が降っている。晴れたら4時半出発で予定どおり内雪岳山(ネーソラク)へ登山。雨降りなら7時半出発で外雪岳山(ウエソラク)へハイキングという明日の打合せをして散会した。30日振りの雨とか、ついていない。日本の女は雨女だと彼等はしきりにからかう。

6月11日

外雪岳山ハイイク

ソウルへ

3時半に目が覚める。天気、小雨、残念！雨では仕方あるまい。諦めて寝直す。

モーニングコーヒを頂き7時半出発。車道と歩道が区切られ、きれいに整備された行楽街を18名が賑やかに歩く。言葉が通じなければ足まね手まね、はては地面に漢字を書く。韓国の山男達、皆、英語が堪能で、私達の勉強不足を痛感させられた。どうしても通じない時は通訳の丁氏を呼んでくる。直ちにOKとなりそのたびに笑いがおこる。

何んとも和やかであった。雪岳山は雨に洗われ、山裾の緑が覆っている霧に映え、鮮やかなコントラストである。車乗り入れ禁止の広場から、吊橋を渡りハイキングコースへ。新緑の樹々のトンネルを2〜3人のグループを作って歩く。このたびの準備をしてくれたというキャプテン、金炳勲氏と先頭集団で歩きながら、チャンボン語で四苦八苦の会話。丁氏と離れば笑ってごまかすことも許してもら

わねば——。

沢沿いの道には、所々に土産店が立並び、しきりに呼び込み合戦を行っている。沢の中には梯子や吊橋がかかっているせいか、かなり年配の人の姿も見られた。1時間半ほど歩くと飛竜瀑布(滝の名称)に着く。民族衣裳のグループや団体のハイカーに混って私達も小休止。ジロジロ見られるのは私達がエトランゼなる由なのだろう。

記念写真を撮ると登って来た道を引き返す。10分ほど下って朝食のために沢へ下りる。白米と焼肉のメニューが用意されていて、手際よく準備にかかると。こういう時は韓国も日本もない。道具もやる事も同じで山屋の心が一体になる。御飯を炊きながら3個のコンロで焼肉が始まる。「朝から焼肉とは。」とびっくりしたのは序ノ口、一掴みものニンニクをいとも簡単にに入れて牛肉を焼くのだ。半焼けのニンニクをスパスパと食べ、私達にも食べると言う。彼等は美味しそうに食べるが、胃がキューンとしたほど辛かつ

た。以後は良く焼いたのを食べるが、焼け過ぎるとサツサと取り出されてしまい新しいのが加えられる。

牛肉+ニンニク+キムチをサニーレタスに包んで食べるのが美味しい食べ方なのだと教わる。もう何んでもかんでも辛いのだ。生の南蛮をこれ又辛い味噌を付けて食べたり、キムチの汁まで平気に飲む。血圧には非常に悪いですね。そろそろ満腹なのに食べても食べても牛肉は出てくる——どの位用意したのかな？通訳氏に仲介してもらって聞え

ば、ワンパック600グラム×18個——スゲー。結局2個残してたいらげた。女の心の狭さ、100グラム〇〇円×600グラム×18個〇〇円と頭の中を数字が走る。大変な散財をしてもらったことに、ベリーグッドと笑顔で連発するのみ。

小休止の際、ふくれて重い炳勲氏のザックをふざけて担いだ。肉と米で重かったのだ。満腹になれば後片付けが待っている。道具を出した時、特にラジュニスがきれいになっていたので感心したが、後

片付けを拝見して納得、パーフェクトの状態にして持ち帰る習慣らしい。あたりまえのことであるが中々実行できないのが現状で、見習うべきところが又一ツ増えた。

帰路は高校生の集団と一緒になる。何故か男子生徒ばかり。来る時の飛行機も満席なのに女性客は私達6名だけだった。余談。

出発地点まで戻ると、ケールに乗って雪岳山の700M台地へ上ってみようということになる。相変らずの小雨と霧がたちこめ、ロッククライミングNo1という岩峰を望むことはできなかった。雪岳山は標高こそ1708Mであるが、巨岩奇石が造り出す奇景と峻嶺、そして溪谷の美しさが有名で、秋が絶景と称賛されているようである。霧の切れ間に顔を出す尖った峻嶺、まさに奇峰を見るかぎり、彼等は谷川岳の一ノ倉などにびっく

りすることはないだろう。ケールの終点より少し登った所に山小屋がありコーヒ

を持って来た石を、山小屋前の

ケルンの石と交換したKさん頂上の石と交換したかったらうにと、晴れぬ霧を恨めしく思う。休憩後、登ることもできないので、明日ソウルへ帰る予定を今日中に帰ろうということに話が総り、下山後直ちにホテルへ戻ることになる。

2時ホテル出発。昨日とは別のルートで帰るらしい。車の窓の景色は来る時と同様にのどかな田園風景には変りないが、農家の佇まいが貧富の差を感じさせる。又、所々にカービン銃を持った軍の兵士や車道路脇のハンゲル文字の看板が、昨日のハイウェイの影響を受けた新開地とは全く異なっていた雰囲気であった。

3時過ぎ途中の河原で昼食タイム。又々焼肉で乾杯。何んだかんだ言いながら、彼等のペースに合わされて飲んだり食べたりしてしまう。キムチも、食器の底に残った唐辛しにびっくりのラーメンも、何んとなく口に合い辛さも少しづつ感じなくなってくるから不思議だ。

を心配し始める。車の中でも缶ビールや夏梅酒がおつまみ付きで出てくる。夕方寄ったひなびた茶屋？では、マツカリなるどぶろくをキムチ肴に御飯茶わんで飲まされた。一口飲んだら注いでくれるのでなく、全部飲ませて注ぐのである。5杯目は茶わんを持って逃げ出した。雨のおかげで親善登山が親善宴会に早変わりか、肥ることと酒に強くなることがだけは保証できた。が見わたすところ肥満体の人がいないということはどういう訳か？

昨日と同様、遅くにホテルへ到着。おとなしくて目が合うとニコリ笑うドライバー？氏に礼を言い、巫印のネオンの赤いホテルへ入る。(驚くことはない。大きいホテル以外はみんな巫がついてい) 遅いので夕食を断わられ、金瀧夫氏の家で御馳走になることになった。夜も遅く、恐縮してお邪魔すると、日本語を話すおじいさんが喜んで迎えて下さった。急のこと

がなかった。素晴らしい住宅に感声をあげたが、銀製の箸や食器にも驚きだった。韓国では11時、12時は遠慮しなくてよい時間なんですよと言ってくれるが、明晩は金氏より正式に招待されていることもあって、御馳走になることと早々に失礼する。12時というのには街は人も車の往来も激しく、土曜の夜はこの国でも同じなのだろうと思う。明朝8時半に迎えに来ると言って山男達は帰る。私達は親切にしてもらって恐縮しているのに、輪をかけるように彼等は、不自由なことはないかとしきりに気を使ってくれる。通訳氏によれば、招請を受けて訪韓してくれたことを彼等がどんなに嬉しく思っているか——と話されたが、私達には想像もつかなかった歓迎ぶりである。そんなことを話しながら2日目の眠りについた。

翌朝、山男達は背広にネクタイの正装で現われた。ダンディ、ダンディとひやかす。それにひきかえ、山登りが目的の私達には飾るものがなく、愛嬌があるよと市内見物に出かける。雨の中、日本語説明の時間が決まっている景福宮という王宮へ案内される。40人ほどの日本人見物者がいて、どこから？(何県の意)と聞かれる。正調日本語の会話である。1時間ほどで1周、日本の御所と同じか？

見学が終ると、昼食は王宮料理ですと朝鮮料理店へ。朝8時に9品の朝食を食べてまだ3時間なのに、又々食べるなんて——。しかし、こまで来たらしいも悪いもない。言いなりだ。

ビールで乾杯、そのあとは甘口の強い酒(ワインと言うが本当か?)をどんどん飲まされる。勿論何んでもかんでも辛い料理はテール狭しと並んでいるし、次から次へと運ばれてくる。キムチは場所が代っても朝昼晩必ず顔を出している。最後のメニューは釜飯。しいたけ、しめじ、ごぼう、松の実、くるみなどを一緒に一人分ずつ炊いたもので、バターの味が強い釜飯だったが、カリカリと底がこけていて、韓国で口にした中で一番美味しかった食物である。私達の口に一番合ったのもかもしれないが、辛い味噌汁でなく、おすましでもあれば最高だった。

腹十二分にして市内見物兼ショッピングへ。土砂降りの雨が恨めしい。街は日曜日とあってものすごい人混みで、迷い子にならないように時々チェックのストップが必要。商品の値段から、韓国では、必需品は非常に安く、ぜい沢品は非常に高い印象を受ける。古町やローサなど対象外の規模と賑やかさで、オリンピックを前に、国際都市として生れ変わろうとしている活気のあるソウルの街であった。ショッピングで最後に買った物、なんとキムチである。2/3キロを全員が買う。通訳氏がドッキリ顔で見ている。(新潟空港でSさんのザックからプリンと臭いを発するハブニングあり。気圧の変化でパ

6月12日

・ショッピング

・フルコースディナー

・ディスコ

ックが膨張した模様。)

雨の為に予定が狂い、予想外のショッピングなど、楽しい番狂わせで時間が過ぎて行く。それはまだまだ続く――。

ショッピングが終了と、金氏よりディナーの招待である。

7時前、金氏宅へ向うと6人の家族が正装で迎えてくれる。奥様のチヨゴリ姿は抜群だった。さっそく乾杯。ちょっと待った！ 1、2、3、4、5……フルコースと聞かされていたが、デザート迄入れるとこの夜のメニューは23種。

もうこれだけで大感激だったのに、招請が実現したことに対して、姉妹山岳会を結んだ時の交換文章と、日付けが書き込まれたラデン細工の盾が二枚作ってあり、鈴木理事長に贈呈された。更にベナン

トや白磁の茶わんが全員にプレゼントされた。私達は日本人形を2ヶ贈る。こんなにしてもらって良いのかと恐くなる。是非新潟へ来てもらわなければと思う。プレゼント交換が終ると、飲め飲めとビール

の応酬。必らずグラスを空にさせてから注ぐのでまいつ

てしまう。酔いがまわれれば賑やかに唄うのは同じで、耳に

覚えのアリランやカスマブゲ、九ちゃんのスキヤキ、リクエ

ストにひばりの港町十三番地など、チャンボン語の合唱が続いた。奥様と2人のメイド

さんが腕をふるわれた料理を一品一品味合いながら一生懸命頂く。ビールもウイスキー

もまったなしで飲まされ、山の心遣いに酔わされ、感度も絶高潮のころ、まだ9時だ

というのに、ここはお開きにしてディスコへ行こうということになる。金氏がパリパリ

(早く早く)とせかす。着いてびっくり、ディスコと気軽について来たが、バス

ポートを見せないと入れない。ホテルの会員制のクラブだった。生バンド、シヨードン

にキョロキョロ。私達は山登りでかかなかった汗を、ここで踊ってびっしょりになる。彼等のダンスはこれ又グー。皆さんの肩書きが示すように山岳会はブルジョワの集団かと思わされる。昨年はアフリカ横断、今年

の集団であり、登山はせい沢な遊びといえそうである。

結局12時迄踊る。まさか韓国で踊るとは思わなかった。

どこで何が役立つかわからな

いものだ。帰ったらいろんなことに挑戦しなければとも思

う。3泊4日の短い日程であったが、毎日ふる回転の強行ス

ケジュールを、至れり尽くせりの心遣いに甘えて、楽しい4日間を過ごさせてもらった。

明日帰らなければならぬと思うと、皆、興奮しているのか話がつまず、ビールを部屋に運んでもらい、楽しかった旅と、このたびの混成パーティに乾杯した。

6月13日

ソウル/新潟

「別れ」とはいつも淋しいものである。4日間に逢った

人は多く、皆んないい人ばかりだった。山男の真価を新

たため感じながら、お世話になつた人達とガッチリ握手を

する。着いた日に「山仲間

で、4日間宜しくお願ひしま

す。」とメッセージしたが、

帰る寸前の飛行機で「今回、皆さんからしい頂いた以上の

ことはできないと思います。是非新潟へ来て下さい。」と、

切に、いつまでも山屋の

期一会になるやもしれない私達との出逢いなのに、心から

歓迎してくれた韓国の山男達。私達山女も、その心に応える機会を与えてもらわなければならぬ。

言うまでもなく、このたび私達が身に余る歓待を受けたことは、これ迄多くの先輩が保ち続けてきた友好の土台があったからこそであり、合わせて、送り出してくれた家族や、職場の理解など、楽しか

った旅の想い出と共に忘れてはならないことである。

再会はいつになるか分らないが、このたびの出逢いを大切に、いつまでも山屋の

友好を保ってほしいものである。

〇きのうまでしらなき友と雪岳山(ソラクサン)

山談議しつつ友好深めん

〇韓国の山男達にここに日本

の女は雨女という韓日のチャンボン語で山談議

山屋の気持は万国に通ず〇帰る日のエアポートで山男言葉少なに固き握手

冬山講習会報告

むささび会 遠藤 家之進正和

本年度は、冬山におけるセルフレスキュー(独自の力で安全を確保する方法)を主体として、冬山生活技術の講習

会を、五頭山塊の菱ガ岳に於いて3月5、6日行われた。講習会場の公民館は、村杉

には薬師堂がある。ここから菱ガ岳への登山道がついてい

曇

るが、近年利用者は少ない。

18時15分開会式を行う。県山協から小林副会長、地元を代表して荒木氏から挨拶がある。講師の紹介に続いて講演会に入る。最近起きた事故を含め、五頭山塊の概要について荒木氏から紹介してもらう。下越山岳会の五十嵐氏からは、飯豊山、二王子岳に登った時の体験話は得るものが多くあった。スキートのテールで雪洞を掘り、雪上での火の起こし方、今では装備の改良で容易であろうが、当時のことを考えると、大変であったことがわかる。聞きながら装備を使いこなすことの大切さを改めて痛感する。

3月6日 雪
6時、降り出した雪の中、菱ガ岳登頂班が立出する。研修班は7時、五頭高原スキー場の駐車場に向う。ここで装備を整え、講習会場である菱見平へ向って出登する。内の沢コースは、駐車場の整備により、利用者が増えている。尾根までは急登であるが、一足ごとに越後平野が広がる。村杉からの登山道と合流し、松

林を抜けると菱見平である。ここは名の示すとおり、菱ガ岳を眺めるには実に良い場所である。振り返れば弥彦、角田山が、越後平野が日本海と接するところに見える。講習は参加人員、時間等を考慮して雪洞構築、イグルー構築、セルフレスキューに分けて行う。雪洞については縦穴式雪洞を狭彩山岳会の込山氏が担当し、柴とポンチョを利用したもの、会で考案された天蓋を利用したものを作る。構築要領を説明した後に、受講者から実際に造ってもらう。造っている最中も多くの質問が交わられていた。イグルー構築はむささび会の加藤氏が担当し、ブロックの大きさ、積み上げるポイント、利用等の説明があり、受講者3名で3人用のイグルーを造り上げた。セルフレスキューはピオレの会の三富氏が担当する。受講者一人一人に持参した装備を利用して、1泊できる雪洞を造ってもらい、全員で検討し合う。この他コンティニア

スにおけるザイルワークも行う。

登頂班は、時折吹ぶかれたが難所の杉鼻も何なく通過し、11時頂上に着く。運良く雪も止み、菅名岳、日本平山、五頭山と視界が広がる。昼食もそこそこに下山し、13時半講習班と合流する。

57年度

冬山講習会に参加して

(58・3・6)

笹神村うすゆき山の会 齊 藤 広 範

菱ガ岳登頂の部(縦走コース)。やはり登り始めは疲れる。

今回、本村に於いて県山協主催冬山講習会が開催される。端々である。リーダー藤谷さんということで、地元でもある「女性はしばらくここで待って下さい。」と指示した。み

3月6日、6時集合。スキー場駐車場まで車で、縦走コース組メンバー出発する。7時より登山開始。さっそくワ

カンを付ける。本年は2月に入ってからの遅雪で、今日もまた、昨夜から雪がふり続けている。

1時間程で横峰(菱見平の

近でまだ、雪洞作りと滑落停止の実技コース組の面々が行なっている所で合流し、我々縦走コース組の日程を終了した。

反省点として、懇親会での宴会で深酒をし過ぎて、行動中、常に雪をつかみほうばって、のどの渇きをいやしていた。また、たとえ、講習会とはいえ、地元山の会に所属しているながら、五頭山についての常識やら、予備知識をもう少し会得しておくべきであった。

今回、参加させていただき、前夜のお二人の講演、また、用意された資料で、藤島玄さんの「冬山これだけは知っておきたい。」など今後の参考になりました。

最後に私の思う範囲では、冬山縦走では調査、予備知識、経験、下準備などや特に、チームワークも大切なのではなからうかと思えます。

今後またのしい山行をやっ

て行きたい!

冬山講習会に参加して

越後ハイキングクラブ 杉田浩一

3月5日6日、五頭山塊、菱ヶ岳において、県山協主催の、冬山講習会に参加する機会を得ました。

今年初めて、冬山に登り、冬山を含め山に関しては、ズブの素人に等しい私であるが、今年2月の連休にクラブの冬山合宿ということで、白山の頂上に立つ事が出来た。夏山では、味わうことの出来ない、パーティの連帯感、景観などをとって私には、素晴らしい経験であった。この1度ったという感じがする。

初日は、時間の都合で、講義を聞くことは出来なかったが、各山岳会との懇親会では楽しい一夜を過ごすことが出来た。

翌日は、縦走、雪洞、イーグル、セルフレスキューの4班に分れる。全班的指導を受ける事は、悉皆的に困難のため、私は、加藤明文さんの班

れるものだと思った。

冬山は、夏山と違い体力の消耗が非常に激しい。体力の負担を軽減するために、今後冬山には、雪洞やイーグルを積極的に取り入れて行く計画を考えてもよいのではないかなと思う。

イーグルの製作の基本は、いかにうまく、雪のブロックを、切り出すかに始まる。雪には、組織があり、これを壊さずに、切り出しつつける様な感じで、渦状にして積み上げる。雪の組織と組織の連係を利用することにより、強度を増加させるのである。当日は、ザラメ雪のため完壁とまで行かなかったが、けっこうガッチリしたものが作りました。

冬山講習会

「セルフ・レスキュー」報告書

むささび会 須貝静郎

1. はじめに

冬山講習会の「セルフ・レスキュー」の班に参加したので、これについて報告する。

尚、セルフ・レスキューの他ザイル確保についても報告

技術で、ビバークの方法を主体とする。

b、仮雪洞

今回の講習会では冬山でのビバーク法として、仮雪洞について実地講習が行なわれた。仮雪洞を作るに当たってのポイント、

(6) その他、普通の雪洞と同様の注意をする。

3. ザイル確保

a、スタンディング・アックス・ビレイ

- (1) 掘る道具として、手持ちのもの（ナタ、コッヘル等）を最大限に活用すること。
- (2) 短時間に小さく掘ること。
- (3) ブロックの厚みは15cm前後が良い。
- (4) 木の枝と手持ちのシート（ボンチョ等）を利用して屋根を掛ける。
- (5) 雪洞の中には段をつけて腰を降り易い様にする。

今回の講習会では、滑落停止の体勢を利用して行なうものが紹介された。これは、ピッケルのピックが確保支点となるもので特徴として、すばやく確保体制がとれること、失敗が少ないことなどがあげられる。

第四回北信越国体

新潟大会を省みて

審判長 藤井信

大会の前日まで雨が降り、競技運営に支障を来たのではないかと、心から心配しながら開会式を迎えた。幸いにも大会期間中はどうやら天候も回復し、協会会員

が丸となって、それぞれの役割を忠実に、しかも、大会準備には持ち味を生かし、運営には献身的な協力体制で、無事大会を終了することができました。あらためて心から感謝申し上げます。

細かいことは別として、本大会の難感を2、3記してみたいと思います。

一、第4回北信越国体
◎ 実施要領の原案の作成と決定

第4回新潟大会の競技実施要領については、開催県である県協会が会場地、踏査競技・長峰原、登攀競技・杉滝岩、縦走競技・焼峰山の種目ごとに決定し、日山協の山岳競技実施基準に基づいて、会場地の実情に合わせた競技実施要領を作成するものである。県協会では、それぞれの種目の担当者を決めて、要領原案の作成に当った。

作成については、各担当者は数回となく現地調査を行い、主管県案ができたのである。5県代表者会議は（7月9〜10日）新発田市体育館で開催された。原案の審議と検討

過程で、今迄の北信越大会は開催時期が8月末という暑い盛りでの厳しい競技であること。日数が短いことなどから選手に対する心遣いもあって、規定重量の軽減と合せて、本大会より配慮されてきた。

また北信越大会が終了した後、全国的レベルまで選手強化するためには、本大会までの期間も短いことなどの理由から、北信越大会も厳しく、本大会での競技内容に近づけた大会であるべきだとの意見が大勢を占めた。

従って、競技実施要領は、日山協の山岳競技実施基準、第38回国民体育大会の予報2号（山岳競技実施要領）。

新たに第38回国体から登攀競技基準の一部改正があり、近日中に日山協から各県に連絡があるとの情報を得る。開催県の新潟県が至急日山協と連絡を取って、登攀競技基準の一部改正も追加することになった。他競技は競技規則が極僅か改正が行われても、競技内容にはそれほど変りはない。競技規則最新版によるだけに競技は円滑に運営もされ、

監督、選手も戸惑いがなく競技に臨んでいる。山岳競技は歴史も浅く過渡期でもあり、競技規則の改正、競技の複雑さとともに会場ごとの要領を作成しなければならぬ。

要領作成には原案の手直し事項がでたため、日時と合わせて忙殺されることとなった。選手強化の任にある監督やコーチの手に届くことが遅くなったり、ご迷惑をかけたことを深くお詫びします。

◎ 監督会議雑感
監督会議の開催日時について意見や要望も多くあった。日程やいろいろの問題があった。競技開始前に設定されている。

山岳競技は、山岳競技に基づいて、会場地の実情に合わせた細部補足の実施要領と大会が運営される。その運営について、監督会議は競技方法や審判事項について再確認する会議である。

今回の大会では、特に各県監督から要望と意見が集中した問題は、縦走競技で競技

コースの所要時間、4時間30分の制限時間の設定であった。実施要領の作成にあたって、各種目とも規定時間や制限時間を設定することは、この会場（地形、距離、高低、時間、危険度、その他）において、選手に対してどこまで競技の厳しさを要求するか一番難しい問題である。

選手の苦しく厳しい競技を配慮する監督の気持ちは十分に理解出来る。

十分に検討され審議された実施要領については、誰が考えてもミスと思われるような点は修正される。よほどの問題点がない限り修正はされないと思ってもよい。

しかし、各監督からの建設的な意見や要望の中には理解の出来る内容もあり、今後、山岳競技を発展させるために十分に反映させなければならぬと痛感している。

◎ 競技中の行動について
各種目とも選手の競技中の行動については、特に安全対策を重点的に配慮した。

特に競技最終日の縦走競技については、監督会議で全体コースの所要時間の厳しさを指摘され、競技部長を中心にパトロール隊、通信隊、救援隊を編成万全の体制をとった。

◎ 北信越ブロック高体連顧問会議について
お互いに競い合うことを別として、監督や選手が一つの機会があるなら、意見交換や親睦を深めるための会を設立することは有意義なことである。

恒例の会であるということ、少年組は登攀競技種目が無い踏査競技終了後の第2日に設定された。

選手の交換会の内容については分らないが、有意義な場であったと推察される。

監督（顧問）の交換会にあつては、会の内容について全く知らないので批判は慎むべきと思うが、翌日は縦走競技もある、競技コースの所要時

間は厳しい、スタート時間は早い。このような競技状況を残しての会の後半はちょっと度が過ぎたのではないかと思う。

スタート前の選手の会話の中には、時間も遅くテントに帰って来た。監督の高野でねむれなかったとか、いろいろの点で選手からの批判もあり問題を残してしまった。

競技講評

踏査競技

主任審判員

柳沢直幸

1. 総延長12KM、標高280Mがあるにもかかわらず、成女少女、40Kg3人、少男55Kg3人以上の負荷重量で規定時間をクリアするチームもあり、訓練の差が時間の結果としてできております。

踏査の最大ウェイトを占める体力の差は日常のトレーニングからと思われ、今大会を通して、ますます励んでもらいたい。

2. 定点の記入の近隣の地形

地物を地図、現地と一致すべき訓練が欠けているため、もう少し日常でも地図の見方を訓練すべきである。

コースが公開されていることから特に下見においても、今自分がどこに位置にいるのか、常に地図と現地を正合させる訓練を必要とします。

なお、規則集を研究して定点のつけ方等をよく理解しないと定点記号を記入もれにしたり、○をしなくてはならぬところを○だけにしたりしており、今後研究をおこたりなくやって競技に臨んで下さい。

3. 設問については、長い距離を走ってきたの苦しい頭の体操ですが、設問傾向については予報や規則にも提示されており、事前にこれ等を訓練しておけば今回の問題もそんなに困難でないと思われ、コースの特長、地物の名称をよく把握して標高、距離、方向の訓練が必要です。

登攀競技

主任審判員

木戸繁良

1. 技術について

毎年技術の向上が見られ、高いレベルにきている。各県の技術の差が少なく、わずかな差は監督の指導によるものと思われる所が多い。

2. タイムについて
練習不足による岩場の慣れ
ルートの研究不足(競技行員の演技を見た時点で、頭に入れる事)

3. 共通点
岩場による履物の研究
ザイル操作でのタイムロス
が見られ、日常での訓練で、力強くスムーズに出来るよううにしてもらいたい。

今回を見るに当り、監督の勉強不足による選手への指導不足が見られる。これも日山協の要領の遅れもあるが、毎年の変更による選手の頭の切り換えが必要と思われる。

特に要領にないもの(指定しないもの)採点表にないもの、要求していないものは、すみやかに取りのぞき、時間のロスを少なくしたいものである。

縦走競技

主任審判員

久保田稔

◎ 幕営技術
撤収、設営ともにタイム上はレベルアップが認められる。ただし、本大会に準ずる部分、例えばテントのたたみ方の研究が不十分である。

◎ 計画書
本年から統一用紙で提出を求めたが、鉛筆書のものがあったがこれは非常識である。また、コピーを貼布したり、そのコピーも統一用紙よりも大きなものが見受けられたが、統一用紙内に納まるようきちんと書きすべきである。

本大会では補欠選手を認められており、現実には選手交替がなされてきたが、補欠選手の記載が殆どなかった。

◎ 縦走競技所要タイム
特区间、全区间ともに規定時間が厳しかったと思われるが、不可能な時間ではないので少しでも近づけるよう普段のトレーニングを強化するとともに、ベース配分等更に努力、工夫を重ねて欲しい。

◎ その他
本登山競技は団体競技であり、チームワーク、リーダーシップの良否が作用する面が大きい。仮りに作戦的なものがあるにしても、3人が一体となって行動することが必要であり、その点、特区间通過後チームがばらばらになって行動していたところが2/3見受けられたが、一考を要する。

・ザックの重量の調整は更に工夫を要請したいし、ザックのまとめ方にも工夫欲しい。例えば後から見ると背負った際、片荷になったり、重心が下方にきている姿が相当見受けられた。

最後に全体的に非常に厳しいものであったと思われるが、本大会を一つのステップとして、常に前向きに高い頂きを求めるが如くたゆまざる精進を期待して止まない。

天気図審査

専任審判員

牧重夫

1. 天気図を書く基礎は、各地のデータをしっかりと正確

	成年女子		少年男子		少年女子	
1位	◎長野	250.8	◎長野	196.0	◎長野	174.6
2位	◎富山	248.1	新潟	168.4	富山	95.8
3位	新潟	215.7	富山	97.9	新潟	90.9

第4回北信越国体総合成績

第4回北信越国体反省

文責 杉本 敏

に見やすく記入することでデータの鉛筆による記入は絶対に避けましょう。

2. 高・低気圧、前線の位置は正確に。そして、他の人が見てもすぐに理解できるように見やすく描画しましょう。

3. 山の天気は、特に平地に比べて変化が大きいものですが、1枚の天気図だけで判断することなく、継続して天気図を描画することにより天気の変化を正確に予測しましょう。

総務の仕事が今大会事行なわしめて、その仕事柄から幾つかの点について反省報告をし、次回(5年後)の改善点としてもらいたく筆をとりました。

* 準備について

地元新潟市の厚意で、協会参与杉原八百樹氏が、新潟市社会体育課勤務で、常時準備体制を施してもらった。そして用具の調達、貸出しに便宜を計ってもらった。

運営面での準備は本大会に合わせていたので、7月第2週の北信越5県の打合せ会では、支障をきたす面もあった。運営準備は県内役員が総ての面を熟知して、北信越5県会議に当たらなければならぬと思ふ。県内役員の意志統一をその場で行なうのではなく、事前に統一見解を出し、それが答弁しても同じ答えが出るような体制が必要であると思ふ。

* 審判部・競技部・総務部

この3部門の仕事は少しずつ入り組み、かち合っている。横の連絡を密にしないと、相手が仕事をやってくれるだろうと言う安易な考えに陥ってしまう。今回代表者が近くに居たので意志の疎通があつたが、離れた者がやる場合、しっかりと自分の受持を確認しておく必要がある。

* 受付

受付時間と開始式時間のつながりで、今回ギリギリ受付セーフで出場資格を得たチームが2つあった。受付と同時に開始式。これは設営する立場として非常に困惑した。来賓もあり、開始式の繰り下げはできず、選手は会場近くに居ることは分かっていたが、間に合わなければ棄権行為である。受付/開始式の間5分位置整列の時間を設けた方が、設営運営側としては有り難い。

* 輸送

今回新潟市より、マイクロバス、大型バスを用立ててもらった。同市に於いてバレー競技も行なわれ、バスは定時運行で遣り繰りしなければならず、競技時間の延長には心配した。早く競技が終了した分は、監督選手を待たせれば良いが、遅くなるバスは次のダイヤで運転となる。今回計算上何人乗るだろう、とは聞き出した人数がバス乗車しなかった。これは監督である。本国体は監督も輸送体制に組み込まれている。それに準ずる北信越大会も同じ準備をしたし、放送連絡もした。開催県によって監督の取り扱いはまちまちであるが、準備をしなければ文句が出るし、準備をすれば従ってもらえない。

* 高体連顧問会議

恒例の会議とのことで、2日19時~20時の間設定された。翌日朝食もとらず飛び出すチーム。選手に指示を出すのを忘れた監督。出発迄各監督はテントコ舞いで飛び交い「特区間競技をやっているよ

* 食事

審判部、競技部の行動役員には弁当を提供し、残留組は手造り食事にしてもらった。朝早くの弁当受取り、袋詰め、各部屋配給と眠い中よく頑張ってもらった。特に入口に弁当を置き「弁当置いておきます。お持ち下さい。」は、定時に起床が出来たと好評を博した。総務として一番費用

うだ。」と言う監督まで出現

女性の生理現象として、正常の身体状況)になるのに時間を要するの、その時間が無いと嘆く。

顧問会議が長引いたのか、定時に主催者が打ち切り親睦会に切り替えたのか、そうであれば以後の行動は、監督自身の自覚とモラルの問題で、主催者側の責任は免れる。だが今後の問題として、北信越5県に申し送りとして、定時に会場の閉鎖をお願いすることにし、競技に熱中できる体制をもっと主催者として考慮していかなければならない。今後は縦走競技中の空き時間は、別の時間帯に設定するよう要望したい。

が大きい部門であり、ケチると食物の恨みは後々まで言われるので気を使った。短時間で出来る献立、3回交替での食事等、多々制約がある中頑張ってもらいました。

＊ 通 信

145 MZのアマチュア無線を8台準備し使用する。下見山行では市民バンド無線を使用し、無線が飛ばないので、本大会の緊急時こんなことでは困る。と、自衛隊に無線協力依頼をする。その後アマチュア無線を使用して充分交信できたので、自衛隊を断わることにしたが時すでに遅しで、相方が交信技術を大会時発揮する場となった。本部赤赤谷と、踏査競技長峰原会場、登攀競技杉滝岩会場、共に感度良好で競技が進められる。3日目焼峰山縦走競技は、各ポイントに通信隊を配置し通過報告をしてもらう。また選手と5分遅れで後走隊を出す。降りコースになって、選手の申告で、2/3チーム、捻挫、バテで動けないと無線が飛ばず。一瞬各無線局に緊張感が走る。本部で、審判長、縦走主任審

判、競技部長の打ち合せが行なわれる。状況を正確に把握したく無線を飛ばすが、各局興奮して混信状態となる。そこで周波数の違う自衛隊無線で本部より指示を出すことで

收拾を計る。選手は自力で下山することができた。問題は、第一報告者の選手が正確な状況把握をしていなかったことにあると思われる。次に各局は同じ周波数なので内容を聞き取ることが出来るわけだが、本部の指示が出ないうちに問題として各部所に内容が流れたこと。次に監督がびっくりして競技会場に立入ってしまったこと。以上のことで感じたことは、現場がなによりも優先するが、他の場所は本部の指示を仰ぐことだと思う。平常山行では今回の各部所での行動は問題にならないことだが、大会中で責任者の指示の基で行動を起こしている場合、整然とした行動が必要であるとと思われる。

なお本部としては、杉滝岩に居た人達で救助隊を編成し、待機させた。後走を至急落伍者の元へ走らせた。監督の気

持を聞きたく、監督を探し続けた。

昼食も満足にとらず、2日間キー局を守ってくれた通信班長。緊急と言うことで、我々にマイクを持たせて通信協力していただいた自衛隊に感謝します。

＊ 総 務

競技内容に精通し、裏方さんいかにスムーズに働いてもらうか、また事前準備と、長期に渡り地味な仕事として頑張らなければならぬ。多岐に渡る仕事内容の為、大まかに分担して仕事をしてもらう。けっしてはめられる部所ではなく、競技終了と共に出る、「ホーツ」と言う溜息は、満足感を表わしているものではなかった。

＊ 最 後

多くの人々から御協力をいただき感謝しております。最高の日で83名の役員から活躍してもらい、監督選手の60名をはるかに上回った。昭和57年6月6日最初の下見をしてから長期の準備期間、本大会には参加できなかったが陰から大会を支えて下さった方々、お礼申し上げます。団体は我々が普段行なう山行と少し違う。そこで山岳競技審判員制度ができ、また技術面の向上と言うことで審判員制度がある。本県には全国で7番目の多き有資格者が居る。有資格者は実際に研修をする場として、5年に1度の北信越国体を活用してもらいたい。

更新時のみご挨拶ではなく、山の中で手を握り合いたいものです。

飯豊山頂本殿

建設基金

募集のお願い

心からお願ひ致します。尚、県協会では県下各協会連絡所に於いて浄財を取りまとめ奉納することに致します。御協力下さい。

山岳共済保険
第二次募集が
始まりました

山岳協会加盟団体に限り特別料金で契約出来る、共済保険の第2次募集が10月1日から始まりました。

保険の必要性については申すまでもありませんが、全般的に見て、その加入率は山岳人口に比べて低率であります。遭難を防止する意味からも、各山岳会に於いて、全員加入を目ざし、推進されるようお願い致します。

尚、参考までに、昭和57年度の事故件数59件、支払保険料7228万円、保険料6915万円、105%の損害 となっています。

新潟県岳人各位の御協賛を